

2026年度退職教員



ふくはら ひろゆき
原 浩之 教授
人間研究学域
教育人間学専攻
2001年4月着任



うの ゆうすけ
鵜野 祐介 教授
人間研究学域
教育人間学専攻
2013年4月着任



ありた せつこ
有田 節子 教授
日本文学研究学域
日本語情報学専攻
2015年4月着任



まつもと やすのぶ
松本 保宣 教授
東アジア研究学域
東洋史学専攻
2002年4月着任



うえの りゅうぞう
上野 隆三 教授
東アジア研究学域
現代東アジア言語・文化専攻
2000年4月着任



かなやま りょうた
金山 亮太 教授
国際文化学域・
英米文学専攻
2016年4月着任



うえだ たかひろ
上田 高弘 教授
国際文化学域
文化芸術専攻
1998年4月着任



さきやま まさき
崎山 政毅 教授
国際文化学域
文化芸術専攻
2001年4月着任



やの けいじ
矢野 桂司 教授
地域研究学域
地理学専攻
1992年4月着任



たきざわ なおひろ
滝沢 直宏 教授
言語コミュニケーション学域
言語学・日本語教育専攻
2013年4月着任

訃 報

- 前会長 中小路 宗隆 氏 2025年11月19日逝去
〈文学部校友会前会長〉
- 名誉教授 寛 文生 先生 2026年1月15日逝去
〈文学部の在職期間：1972年～2005年〉
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

入会案内（2006年度以前にご卒業の皆様）

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では約20,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生の皆様や文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、文学部校友会のなかで、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。入会にあたっては、終身会費として10,000円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展、ならびに、学生・院生の支援にご協力いただきますようお願い申し上げます。

文学部校友会入会手続きについて

2006年度以前にご卒業の方が新規にご入会いただく場合は、文学部校友会事務局までご連絡いただくか、文学部校友会HPの入会申込フォーム（下記URL参照）よりお申込みください。

▶立命館大学文学部校友会事務局

☎ 075-465-8187（文学部事務室内） ✉ ltalumni@st.ritsumeikan.ac.jp
🌐 <https://secure.ritsumeikan.ac.jp/forms/ltalumni/entry/>



原稿募集

文学部校友会報LETTERS（年一回発行）では「文学部校友の『いま』」「伝言板（同窓会案内）」などの原稿を募集しています。詳しくは文学部校友会事務局までお問い合わせください。

同窓会への支援

下記に該当する同窓会活動に関する経費を補助します。

クラス・ゼミ等同窓会

正課の小集団科目に関する同窓会
※正課外の同窓会においては常任幹事会が承認した同窓会も対象

専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が参加するもの

【補助内容】同窓会開催、案内状送付、会報や記念誌の印刷、同窓会HP作成など、同窓会活動に関わる経費。
★同窓会開催をご検討されている方は、事前に文学部校友会事務局までご相談ください。

申請団体	補助の根拠	補助金支給上限額
クラス・ゼミ同窓会	①文学部校友会会員が3名以上参加するもの。 ②事前申請書に担当教員の確認印。教員に確認が取れない場合は文学部校友会事務局へ相談。	10,000円（実費） ※領収書必須
専攻・プログラム同窓会	①文学部校友会会員が3名以上参加するもの。 ②同窓会規約。規約がない場合は文学部校友会事務局へ相談。	100,000円（実費） ※領収書必須

申請方法など、詳細はこちらをご参照ください。

▶同窓会活動・補助一申請書類・流れ

🌐 <http://www.ritsumeikan.ac.jp/ltalumni/dousoukai/workflow.html/>



同窓会活動補助費の事前申請がWebでできるようになりました！

▶活動補助費申請フォーム

🌐 <https://secure.ritsumeikan.ac.jp/forms/ltalumni/dousoukai/>



デジタル会員証について

2022年3月より、デジタル会員証を導入いたしました。

※本サービスは文学部校友会が発足した2007年度以降の卒業生、または終身会費をお支払いいただいた「文学部校友のみ」に限定されております。なお、特設ページなどにアクセスするものではなく、「校友会員」であると表示されるだけのものになります。

【ログイン方法】会員証をご提示いただく際は、文学部校友会HPで「会員証」ボタンをクリックするか、ブラウザで下記URLを入力し、ログインしてください。

🌐 <https://www.web-dousoukai.com/rits-ltalumni/>

ログインID 学生証番号／会員番号 ※1

パスワード 生年月日（YYYYMMDD形式で入力） ※2



※1 会員番号はSで始まる番号、または16で始まる番号です。
※2 西暦年4桁＋月2桁（1月の場合「01」）＋日（1日の場合「01」）の8桁

LETTERS

College of Letters



EVENT/

2026年度文学部
校友会懇親会
11月1日（日）開催！

くわしくは3ページへ

会長ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 いけのぼう せんこう 池坊 専好



昨年は立命館の創始155年・学園創立125周年記念行事が行われました。私も立命館大学交響楽団といけばなのパフォーマンスをさせていただき、卒業生のひとりとしてありがたい経験をいたしました。また式典では、学祖・西園寺公望のその当時の国際世界における日本の立ち位置や考え方を振り返りつつ、「デザイン・アート学部」「大学院デザイン・アート学研究科」を新たに開設するなど、立命館のこれからのビジョンを共有しました。

人口減少・少子化の進む現代の日本にあって、不易と流行、変えないもの、変えていくものを見極め、持続・成長していく立命館の姿勢を知り、心強く感じるとともに、卒業生ひとりひとり、あるいは組織としてできること、すべきことを改めて問うひと時でした。

と同時期に、半年間にわたった大阪・関西万博も閉幕しました。158の国・地域が参加しさまざまな団体の参画、そして約2902万人の入場者を得ることができました。立命館の学園全体としても学生や卒業生のみならず教職員等も一丸となり、それぞれが所属している団体を通して67もの企画を実施し、約2400名もの方々があらゆる形で万博に関わりご協力くださいました。その活動内容は、日本の伝統文化、

ロボット、環境問題などの多彩な切り口でのワークショップを「いのちの遊び場 クラゲ館」で催したり、アイスランドのナショナルデーに参加したりとさまざまです。その時の活気、リアル開催だからこそ獲得したひとりひとりの中で芽生えた相互理解や国際的融和、あるいはビジネスマッチング等の成果をどのようにレガシーとして今後も継続して生かしていくのが求められています。

万博のみならず、それは立命館でも同じことがいえるのではないのでしょうか。これまでの経験や思い、そして125周年を機に改めて考えたことをどのように見える形として具現化できるのでしょうか。またこれからどのようなビジョンをもって未来を創っていけるのでしょうか。校友会としても、在学生、そして卒業生という未来を担う方々に寄り添いサポートをしていければと考えます。これからも誰にでも誇れる立命館大学文学部校友会として活動していけるよう引き続きのご尽力を賜えましたら幸いに思います。

- 2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了
- 華道家元池坊 次期家元



立命館大学文学部校友会会報 2026年 第18号

2026年7月発行 立命館大学文学部校友会 〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
☎075-465-8187 🌐 <http://www.ritsumeikan.ac.jp/ltalumni/> Facebook もご覧下さい。

立命館大学
文学部校友会
ホームページ



学部長ご挨拶

立命館大学文学部校友の皆さまには、日頃より文学部への温かいご支援とご協力を賜っております。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。おかげさまでもちまして、2025年度には合計1,140名の新たな校友会会員を迎えることができました。新たに文学部を巣立った卒業生・修了生が、皆さまとともに校友会の一員として歩みを進めていくことを、たいへん心強く存じます。

「自由と清新」を建学の精神に、「平和と民主主義」を教学理念に掲げて歩んできた立命館は、2026年3月27日に、立命館憲章を改正いたしました。ただし、そこでは立命館が「未来を信じ、未来に生きる」の精神を変わず受け継ぐことをあらためて確認しています。同時に、立命館が第二次世界大戦の痛苦の体験を踏まえ、歴史を誠実に省みて戦争と暴力を否定し、「自主、民主、公正、公開、非暴力」の原則を貫く学園であることも、これまでと変わるものではありません。

私たちは今、あらためて大きな転換点に立っています。グローバル化が進む一方で、世界では分断や排除の動きが顕在化しております。また生成AIをはじめとするデジタルテクノロジーの急速な進展により、人間の言語活動や意味生成のあり方そのものが問い直されています。だからこそ今、人間とは何か、自己とは何か、他者とは何か、社会とは何か、平和とは何か、そして言葉や意味とは何かを問い続ける人文学の意義は、ますます重要になっていると存じます。

立命館大学文学部長 ^{えんどう ひでき} 遠藤 英樹



文学部は、1927年に文学科国語漢文科が設置されて以来、まもなく100年という大きな節目を迎えます。この長い歩みの中で、文学部は一貫して、言葉、記号、歴史、文化、思想、芸術、地域、身体、記憶などを通して、人間が紡ぎ出す「意味」の探究に取り組んでまいりました。

文学部はこれまでの歩みを大切に継承しながら、同時に「新たな時代の人文学」を真摯に探究してまいりたいと考えています。それは、人文学を未来に向けて再構想する試みであり、本学部が培ってきた知を「新たな高み」へと飛翔させるとともに、その「根源」をさらに深く掘り下げていく営みでもあります。そうした研究・教学を通して、よりよい社会の創造に貢献してまいりたいと考えています。

そのことは、校友の皆さまのお支えなくして成し遂げることはできません。皆さまがそれぞれの場で積み重ねてこられた知、経験、実践は、文学部の歴史そのものであり、未来へ向かうためのかけがえのない礎です。

これまでのご支援にあらためて深く感謝申し上げますとともに、今後とも、ともに学び、ともに考え、ともに未来を切り拓く文学部にに対し、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

2025年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会会長賞 受賞者コメント

黄檗宗萬福寺の門扉に施された「桃戸」のひみつ

受賞当時：中国文学・思想専攻 4回生 ^{くぼ た こうとく} 久保田 高德

このたびは、2025年度文学部ゼミナール大会において「文学部校友会会長賞」という荣誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。この受賞は決して私一人の力によるものではなく、これまでご指導くださった中国文学・思想専攻の石井真美子教授、そして同じゼミの皆さんの支えがあったからこそ得られた成果であると、感謝しております。

私の研究は、黄檗宗萬福寺に見られる「桃戸」という特異な建築意匠に着目し、その成立背景と宗教的・文化的意味を総合的に明らかにすることです。黄檗宗萬福寺は隠元隆琦を中心とする渡来僧団によって、明末中国の宗教文化・思想体系・生活様式をほぼ原形のまま日本に移植した禅宗寺院です。中国文化において桃は、生命力・不死・厄除け・死霊退散といった多層的象徴を担う霊木として理解されてきましたが、こうした思想は日本列島固有のモモ信仰や伏見桃山の地域的象徴性と結びつき、萬福寺の宗教空間の中で再統合されたと考えられています。「桃戸」は、外界の穢れや死霊、煩惱を遮断し、内部の清浄性を保持する結果として機能し、「思想としての桃」が意匠化されました。

本研究で培った、問いを立て、文化や思想の背景を読み解く姿勢を、今後は教育の現場に生かし、文学や思想の面白さ、探究することの喜びを子どもたちに伝えていきたいと考えています。このたびの受賞に恥じぬよう、今後も研鑽を重ねてまいります。



2026年度 文学部校友会 懇親会のご案内

時

2026年11月1日(日)
11:30～14:30 (10:30～受付開始)

所

ホテルオークラ京都(翠雲の間)

〒604-8558 京都市中京区河原町御池 TEL.075-211-5111
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結

講演会(60分程度)

演題

文学部・京都学での学びが導いたフィールド — 祇園祭の研究と継承実践 —

^{さとう ひろたか} 佐藤 弘隆 デザイン・アート学部准教授

佐藤 弘隆 准教授

立命館大学文学部京都学プログラム一期生。立命館大学大学院文学研究科、同大学文学部地域研究学域京都学専攻特任助教、愛知大学地域政策学部准教授などを経て、2026年4月より現職。専門は人文地理学、デジタル人文学。歴史的都市空間における祭礼文化の継承を研究テーマとし、京都祇園祭の船鉾や弓矢町の武者行列では、研究成果を地域の実践へと結びつけながら、実際の祭礼継承にも携わっている。

※司会・進行 ^{かわはら のりふみ} 河原 典史 地域研究学域・地域観光学専攻教授



ミニライブ

立命館大学アカペラサークル Empire Castによる ミニライブ

立命館大学アカペラサークル Empire Cast

楽器を使わず、人の声だけで音楽を奏でる「アカペラ」に取り組むサークル。大阪いばらきキャンパス(OIC)を拠点としており、今年で設立11年目になる。毎年冬頃にはOICのグランドホールでWinter Liveを開催するなど、精力的に活動を行っている。



参加対象

文学部校友会会員※・文学部卒業生

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は会報P.8「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください)。

定員 会場定員150名(応募者多数の場合は先着順となります)

お子様の
同伴を
歓迎します

1. お子様ランチを用意しています。
2. 乳幼児期のお子様については飲食物の持ち込みが可能です。
3. 託児サービス「キッズスクウェア」の利用が可能です(6ヶ月～小学6年生まで)。開催時間分の50%の料金を校友会にて補助します。「キッズスクウェア」について、詳しくはホテルオークラ京都のHP(<https://www.alpha-co.com/nursery/facility/hotelokurakyo>)をご覧ください。

参加費

文学部校友会会員 3,000円

▶ 非会員(入会いただいていない方・同伴の方) 4,000円

(お子様ランチのご利用…1,000円、飲食物持ち込みの乳幼児…無料)

無料招待枠

2025年度卒業生(2025年9月～2026年3月卒)、
卒業後10年(2016年度:2016年9月～2017年3月卒)、
卒業後50年(1976〔昭和51〕年)の
文学部校友会会員の方は無料でご招待いたします。

懇親会にご参加をご希望の方は以下の方法でお申込みください

Web 申込

▶ 立命館大学文学部校友会 HP ▶「イベント」▶「懇親会参加申込」(<https://secure.ritsumei.ac.jp/forms/ltalumni/events/>)からお申し込みください。



申込期限

2026年9月30日(水)
〈必着〉

最新情報は文学部校友会のホームページやFacebookでご案内させていただきます。

【お問合せ先】立命館大学文学部校友会事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 TEL:075-465-8187 FAX:075-465-8188
E-Mail:ltalumni@st.ritsumei.ac.jp HP:<http://www.ritsumei.ac.jp/ltalumni/>

伝言板

2026年度
地理学・地域観光学
同窓会イベント

【日時】2026年11月28日(土)10:00～12:00頃 【イベント】河島一仁先生によるミニ巡検第4弾!衣笠の歴史地理を探りましょう、幕末から現在まで。一薩摩藩、足利三代木像梟首事件、第三高等学校、画家・学者の転住、映画産業、中川小十郎、立命館日満高等工学校、カトリック、水上勉『雁の寺』、富家宏泰、泰山タイル、衣笠山借景― 【集合場所】清心館東玄関内 【その他の行事】同窓会だより・ウェブサイトをご覧ください。

文学部校友会 懇親会報告

〔時〕 2025年11月30日(日) 11時30分～14時30分 〔所〕 ホテルオークラ京都(翡雲の間)



2025年度は、ホテルオークラ京都を会場にして、総会・懇親会が開催されました。

冒頭、前会長であられた中小路宗隆さまのご逝去にあたり黙祷を捧げた後、総会が開催されました。

総会では、常任幹事の高儀智和より予算や活動方針、役員体制などについての報告が行われ、満場一致の承認となりました。

懇親会では、池坊専好会長による開会のご挨拶のあと遠藤英樹文学部長から乾杯のご発声があり、和やかな雰囲気の中食事・歓談がはじまりました。約130名の校友が世代を越えて一同に会し、親睦・交流を深めました。

講演会

現代東アジア言語・文化専攻 上野隆三教授より「新聞から見る19世紀の上海競馬」というタイトルでご講演いただきました。中国における競馬の歴史を当時の写真とともにお話いただき、みなさん熱心に耳を傾けられ、とても貴重な講演となりました。



マンドリンクラブによるミニコンサート

イタリア発祥の楽器であるマンドリンに加え、クラシックギター、コントラバスで「東京ブギウギ」「アラジン」と他2曲を演奏いただきました。みなさんしばしの間マンドリンの優しい音色に魅了され聞き入っていらっしゃいました。

抽選会

最後は、恒例の抽選会が行われ、立命館大学文学部出身の作家の著作、プロ野球選手のグッズなどがあたり、大盛況ののち閉会となりました。2025年度の懇親会は、20代、30代の参加者も多く、お子様連れの校友もいらっしゃいました。文学部校友会はこれからも懐かしい校友との出会い、新たな校友とのつながり、教員や現役の学生との交流など校友会だからこそできる企画運営に努めてまいります。

文学部校友の「いま」



「足元の過去」から「頭上の未来」へ

大学を卒業してから現在、国土交通省航空局で働いております。学生時代は縄文時代のゼミに所属し、夏休みに行われた杉沢遺跡の発掘で来る日も来る日も土にまみれた一方、サークル活動ではバドミントンサークルに所属し汗を流すという、まさに「文武両道」な日々を過ごしていました。一見すると、地中の遺物・遺跡などから過去の人間の生活を明らかにする「考古学」と、大空の安心・安全を守る「航空行政」は何ら関わりのない分野に思えるかもしれませんが、一つの事象に対して多角的な視点からアプローチし、断片的な事実を丁寧に繋ぎ合わせて背景を読み解く文学部での学びは、複雑な現代社会の課題解決において、私の確かな土台となっています。

現在は、航空分野の脱炭素化(GX)や航空物流の効率化・活性化など、日本の空の未来を描く多岐にわたる業務に従事しています。航空業界は、パイロットや整備士、グランドハンドリング、そして我々行政官など、多種多様なプロフェッショナルが関わる巨大なネットワークです。たった一つのフライトを安全に運航するためにも、想像を超える多くの人の手が重なり合っています。現場の想いを汲み取り、複雑な利害を調整しながら新しい空の形を創っていく過程は、非常にやりがいを感じるものです。

考古学が「過去」との対話であるならば、現在の仕事は「未来」の創造です。これからも学生時代に培った探究心を胸に、日本の翼がより安全に、そして持続可能な形で羽ばたけるよう、ひとつひとつの繋がりに真摯に向き合いながら尽力していきたいと考えています。



佐々木 周

国土交通省航空局
考古学・文化遺産専攻
2019年3月卒業

市民に届く・伝わる広報を目指して

私は2024年3月に言語コミュニケーション学域を卒業し、現在まで名古屋市役所で働いています。市役所では広報に携わる部署に配属され、映像での広報や部署内での予算・決算などの管理を主に担当しています。一口に市役所での仕事といっても、その領域は多岐にわたります。市民の皆さんの生活に関わる幅広い分野の業務があるなかで、年次の浅いうちから広報という庁内全体の施策に関わる業務に携わることで、様々な事業について幅広く知ることができ、得難い経験をさせていただいています。そんな中で、大学での学びや経験が現在仕事に取り組む基礎になっていると思う部分が多くあります。特に西岡先生のゼミでは、文章創作を行い、実際に様々な文章や表現について学友の皆さんと議論を交わしあいながら、よりの確に自らの意図を読み手に伝えるためにはどうすればよいのか？ どんな表現がより良いのか？ を深く考えて実践しました。文章全体の構成から、一文字一文字の表現まで、自分一人だけで取り組むのではなく先生や他の学生の意見や感じたことを聞きながら、より良いものに練り上げていく作業を在学中にじっくりと腰を据えて行うことができたことで、文章や読み手への向き合い方を自分なりに掴んでいくことができました。そういった経験は、伝えるべき対象が市民に変わった今にも生かされています。限られた時間・語数の中で、いかに伝えるべきことを、理解しやすく、誤解なく伝えるか。様々な市からのお知らせを適切に広報することで、届けるべき人にきちんと届けることができるのではないかと考えています。今後、広報関係に留まらずより様々な業務に携わっていく中でも、立命館大学で学んだことや経験を活かして、働いていけたらと思います。



吉村 美夢

名古屋市役所
コミュニケーション表現専攻
2024年3月卒業

『臨床教育学のフィールドの在り処』

私の専門分野は臨床教育学です。臨床教育学がどのようなものなのか、一つの例を通して説明したいと思います。ある小学校の教育相談担当の先生が教えてくれたエピソードです。

……………

小学校3年生のN君は、授業中「自由に」好きなタイミングで発言し立ち歩くことのある、いわゆる「落ち着きのない子」です。担任の先生の手にはあまるようになり、この教育相談担当の先生がサポートして個別にも指導することになりました。相談室でボードゲームやお絵書きをしたり話をしたりしていると、N君のチャーミングな面が見えてきます。一対一で見てもらっていると、漢字や計算のドリルに集中して取り組みます。ほどなく先生はN君が「約束」という単語を日常的に頻りに使うことに気づきます。「勉強が1ページ分終わったらトランプをしよう、『約束』ね」「次の相談室の授業はいつ？『約束』しよう」。

試しに一度先生のほうから「じゃあドリル1ページしたら、10分間ゲーム、『約束』と「約束」の語を使ってみると、それをきっかけに2人の会話はよりスムーズにかみ合うようになりました。「約束」の語がN君と自分とを繋ぐカギだったのだから、と先生は思います。展望が開けたように感じました。ところが……。

小学校の個人面談に軽バンで校門に乗りつけたN君の母親は、宅配業者の制服のまま教室に飛び込んできました。仕事の合間に

面談に来たので、終わると急いで仕事に戻ろうとします。ひとり親家庭とは聞いていたが、母親が文字通り駆け回り生活を支えている、その大変さを先生は目の当たりにします。目ざとく母親を見つけたN君が駆け寄り矢継ぎ早に話します。「今日の仕事の終わりはいつ？」（母親「5時、くらいかな」）「じゃあ終わったら、すぐに、すぐに、迎えてにきてね、『約束』だよ。『絶対に、絶対に、約束』ね」。

N君の使う「約束」の語は、私たちの「約束」とニュアンスも重みもまるで違う。彼の「約束」は、日々仕事に追われる母親と自分を繋ぐ「命綱のようなもの」かもしれない。「宝物のような大切なもの」なのかもしれない。その



「宝物」を横取りしたような自分の行ないをかえりみて、先生は胸が締めつけられます。……………

教育というと、どうしても「教える」「力をつけさせる」ことに力点が置かれがちです。上述の例で、N君にクラスでも楽しくすごせる

力、クラスになじめる力をつけさせようとする先生の奮闘は必要なことだと私も強く思います。N君の発する「約束」というかすかなヒントを敏感に感じとれることも、この先生の優れた資質・技能です。その後、自らをかえりみて心を痛めるというセンスもまた同様です。ただ、教育研究では、「教える」「力をつけさせる」ことに比べて、この種の資質・技能やセンスは後回しにされがちです。上手な教授法や能率よく教えることこそが教育研究だと見なされる場合も少なくありません。

「臨床」教育学もそうです。「いじめ」「不登校」等の教育問題の対策の研究開発と思われがちです。しかし、私のメイン・フィールドは、教育研究の主流である「教える」「力をつけせる」ことに覆い隠される、それらとはまた別種の（N君の「約束」の語のもつ意味のような）教育世界のあり方を探究することです。自分にとって大事な誰かと「約束」を交わす／交わせる（結果的に破られてしまうことも少なくないが）ことの意味と、そこから得られる安心感。あるいは逆に、そうした誰かが身近に一人も居ないことからくる不安と絶望、等。N君のエピソードには、教育や子どもの世界の探究の材料がたくさんあります。このフィールドで、教育世界を研究すること（それが私の臨床教育学研究です）に今後も取り組んでいきたいと考えています。

PROFILE

京都大学大学院教育学研究科博士課程（臨床教育学）単位取得退学。大谷大学任期制助手、大谷大学短期大学部講師、大谷大学講師、准教授、そして、立命館大学准教授を経て2025年より現職。子どもの生活世界・教育世界の探究に努める。共著に『教育の世界が開かれるとき——何が教育学的思考を発動させるのか』（世織書房、2022年）など。



私の学生時代 No.004

先生方との出会い

1979年4月、私は文学部中国文学専攻に入学した。高校時代に高橋和巳の小説や評論に触れ、彼が中国文学者でもあったことを知って、その影響で中国文学専攻を選んだだけであり、中国文学についての予備知識は何も無かった。一回生の研究入門は算文生先生が担当して下さい、中国文学史上のトピックをグループで分担して発表した。私は「はぎわら」なので五十音順では後の方になり、唐から宋代にかけて隆盛した唐宋詞を担当することとなった。当時の私は唐宋詞というものを見たことも聞いたこともなく、何がなんだか全く分からなかったのであるが、先生に教わった参考文献を旧衣笠図書館で見た時の衝撃は今でも忘れられない。それは、これまでの授業で聞きかじっていた中国文学とはまったく異質なものであった。詞牌名の美しさ、たゆたうような感情の流れ、使われている語彙の煌びやかさなど、こんな世界が中国文学にあったのかとまさに目から鱗の落ちる体験であった。この出会いが、その後現在に至るまで唐宋詞を学び続ける原点となった。

同年7月には、当時奈良女子大学におられた村上哲見先生が立命に來られ、「宋代における雅俗の見」と題する講演をして下さった。日本の唐宋詞研究の第一人者である村上先生のお話を間近に聞いたことは、私の将来を方向づける大きな出来事であった。

二回生の基礎講読では、松本幸男先生に散文を読んで頂いた。松本先生は授業中によくご自分の研究についてお話をして下さい、ある時「文献目録の作成を誰か手伝わないか」とおっしゃったので、身の程知らずの私は当時修学館にあった先生の研究室を訪ね、文献目録の作り方を教わった。それがきっかけとなり、『古詩紀』の出典調査や院生主催の読書会にも参加するようになった。



中国文学概論は、当時はまだ非常勤講師であった清水凱夫先生が担当されており、私は二回生時に受講したように記憶している。清水先生の授業は毎回とても面白く、怠け者の私も熱心に通った。授業後に質問をすると、先生はいつも丁寧に答えてくださり、その内容は中国古典文学から日本近現代文学にまで及ぶ博学なもので、文学の面白さを存分に教えて頂いた。

三回生の講読では、白川静先生が『史記会注考証』を読んで下さった。白川先生のお名前はもちろん知っていたが、直接お目にかかったのはその時が初めてであったと思う。その講義は時には中国古代の民俗学や漢字の起源説などにも及び、先生のお話を聞くのが毎回の楽しみであった。それは白川先生が学部で担当された最後の授業でもあり、貴重な経験であった。

学部卒業後私は大学院に進学し、そこでも多くの先生方や先輩・友人に恵まれ、漠然とではあるが学問の道を志すようになった。大学院では、小川環樹先生に王力『漢語史稿』を講じて頂き、興膳宏先生には訳注のあり方を徹底的に教わった。興膳先生の授業は毎週金曜日の四限に開かれ、その厳しい授業で精も根も尽き果てた後に、先輩や友人たちと飲みに出かけるのが無上の楽しみであった。

私が直接お教えを受けた先生方のほとんどは、既に鬼籍に入られた。寂しく思うとともに、先生方の論文の一節や何気ない言葉がふと蘇り、今なお身近に感じることもある。私は2026年3月末日を以て定年により退職したが、もう少し頑張って、先生方の足下に一步でも二歩でも近づきたいと思う。

大学院で学問を探究してみませんか？

立命館大学大学院文学研究科には、社会人もしくは社会人経験のある大学院生も在籍しています。仕事に直結する専門知識の習得、生涯学習、学位取得など、学びの目的はさまざまです。文学部を卒業した皆さん、立命館大学大学院で学問を探究してみませんか？

文学研究科は90名以上の教員を擁します。博士課程前期課程には、より高度な人文学を身につける「高度探究コース」と、研究者を目指す「研究一貫コース」の2つのコースがあります。専攻・専修を超えた多様な科目の受講や研究活動も可能です。在学年限（4年）の範囲で計画的に履修できる「長期履修制度」もあります。

11月から「大学院ウィーク」や「大学院進学説明会」などのイベントを開催します。文学研究科の紹介や最新の入試動向、文学研究科の教員や大学院生に直接相談できる機会を提供する予定です。イベントの詳細や申込方法は、「立命館大学大学院 入試情報サイト」をご覧ください。



立命館大学文学研究科ホームページ
<http://www.ritsumeai.ac.jp/gsl/>



立命館大学大学院入試情報サイト
<http://www.ritsumeai.ac.jp/gr/>

“ すぐに、迎えにきてね、
「絶対に、約束」ね ”